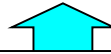


1 全体計画

学校の教育目標学校の教育目標

- かしこく 学び合いの中で、思考力・判断力・表現力を身に付け、自ら学ぶ子ども
- やさしく 規範意識が高く、相互理解に努め、人のために尽くす子ども
- たくましく 運動に親しみ、心身ともに健康で、体力・気力・意欲に充ちた子ども



令和元年度学校経営方針

公立学校としての責務である知・徳・体の調和のとれた児童の育成と「コミュニケーションの輪を広げ、学び合い、高め合う実践型コミュニティスクールの創造」を実現するべく、保護者や地域の人、関係機関の人や学習支援ボランティア等と連携を深め、地域の特色を生かした教育活動を推進する。

本校の捉える「確かな学力」

新学習指導要領及びその年間指導計画・評価計画に基づいた基礎的・基本的な内容を確実に身に付けるとともに、学び合いの授業実践を生かし、自ら課題を見つけ、思考・判断・表現し、よりよく問題を解決する資質や能力。

令和元年度の指導の重点

<各教科>

- ・課題と向き合い、個でじっくりと考える主体的な学びの充実を図る。
- ・個の考えを集団（ペア、グループ、全体）で互いに学び合う対話的な学びの充実を図る。そのために、相手意識、目的意識を持たせた表現活動を計画的に実践していく。また、多様な考え方を交流できる授業を設計する。
- ・児童の実態から、特に国語では「話す」「聞く」、算数では、「思考」「技能」を重点に指導の工夫を図る。

<道徳科>

- ・全校として「思いやり」の育成を中心に、低学年は「礼儀」、中学年は「友情・信頼」、高学年は、「相互理解・寛容」を重点に指導する。道徳的価値について多角的、多面的に話し合い、議論する活動の場面を設定し、自己の生き方を振り返る学習を目指す。

<特別活動>

- ・学校生活や学級生活の充実や向上を目指した活動を展開することで自主的・主体的な実践態度を育成する。

<総合的な学習の時間>

- ・地域の人材や施設を活用し、体験的な学習や課題解決学習の充実を図ることで、自己解決能力・自己実現能力を育成する。

<生活指導>

- ・挨拶や礼儀等の基本的な生活習慣・規律ある集団作りに努め思いやりや望ましい人間関係の育成を図る。

<進路指導>

- ・昨年度までの小中連携教育研究をさらに充実させ、学力・体力・生活面で中学校への円滑な接続を図る。
- ・キャリア教育を通して、自分らしい生き方への希望や自覚を育成する。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

- ・問題解決型学習の定着と充実
- ・ねらいの明確化
- ・課題の工夫（学習意欲を引き出す身近な題材）
- ・学び合いの工夫（内容や場面の精選、丁寧な「話す」「聞く」「読む」「書く」の日常化）
- ・東京ベーシックドリルの活用

教育課程編成上の工夫

- ・授業時数の十分な確保と安定した進行（思考・表現の時間の確保、学び合いの充実を図る時間と環境の確保、個別指導のための時間の確保）
- ・朝学習の有効な活用（表現力の向上）
- ・休み時間や放課後等における補充学習の充実

評価の工夫

- ・年間指導計画・評価計画の作成と活用、修正
- ・発言やノート等の評価を基にした学びの状況把握
- ・課題に対する自力解決の振り返りから生まれる児童の自己評価の充実
- ・学び合いから生まれる児童の相互評価の充実

校内研究・研修の工夫

- ・話す・聞く活動を取り入れた各教科・領域等における学び合いの充実
- ・ねらいや身に付けたい力を明確にした指導
- ・思考力・判断力・表現力の育成
- ・ICT（電子黒板等）を活用した資料提示の工夫

家庭・地域との連携の工夫

- ・保護者、地域の人材や施設を活用したコミュニティ学習
- ・家庭学習の習慣化（漢字、計算練習や日記、楽器練習等）
- ・学校公開日等、学校・学年・学級だより等による情報発信

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

- ・算数科を中心に授業における全体指導・個別指導の充実を図るためのT・Tとしての活用
- ・休み時間や放課後等における補充学習の充実を図るための活用

ALTの活用の工夫

- ・英語学習における発音や会話の指導の充実を図りコミュニケーション能力の素地を高めるためのT・Tとしての活用
- ・外国の歴史や文化についての指導の充実を図るためのT・Tとしての活用

## 2 各教科における授業改善プラン

### (1) 国語科

#### 国語科の重点

・基礎的・基本的な知識、技能を活用して課題を探究することができる国語の能力を身につけることができるよう、話すこと・聞くこと・書くこと・読むことの各領域において言語活動を充実させる。特に、校内研究と関連させ、話す・聞く力の育成に重点を置く。

### (2) 社会科

#### 社会科の重点

・社会的事象への興味・関心をもち、学習問題を設定し、問いの予想、調べる計画を立てることにより、児童が主体的に学べるように様々な話題を意図的に取り上げながら学習に取り組む。

・見学や資料を活用した調べる活動を充実させ、調べて分かったことを基に社会生活の役割や意味について、比較、関連、総合して考える活動を充実し、継続させる。

・問題解決的な学習を通じて、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かせる態度を養い、理解がより深められるように指導する。

### (3) 算数科

#### 算数科の重点

・数学的な考え方を育てるために、

- ① 日常的な事象と数学的な事象を関連させた単元計画、授業計画を立てる。
- ② 自分の考え方を言葉や絵・図・式・表・グラフ等で表しながら主体的に進める学びの場、友達とお互いの考え方を説明し合う共働的な学びの場を設定することで学びを深める。
- ③ 多様な解決方法を統合的に考えたり、発展的に考えたりする活動を学習過程に位置付ける。

### 習熟度別少人数指導の充実及び任期付短時間勤務教員活用の工夫

#### ・児童の習熟度の把握

毎日の授業終末時での適応問題の実施により正答率を把握する、東京ベーシックドリルの活用による正当率を把握する、単元ごとのワークテストによる正当率を把握するなどから総合的に判断する。

ノートの記述内容、東京都「学力向上を図るための調査」文部科学省「全国学力・学習状況調査」の結果を詳細に分析した上で有効活用し、算数科少人数委員会を中心に学年の実態を把握し、計画的に対応していく。

#### ・児童の理解や習熟の程度に応じた学習集団の編成

基本的に単元ごとのレディネステスト、関連のある単元での児童の実態の把握により、習熟度別の学習集団を編成する。

#### ・習熟度の程度に応じた「補充的な指導」や「発展的な指導」の実施及び任期付短時間勤務教員活用の工夫

主に基礎的な内容の定着を図るグループに少人数加配教員を常時配置し、併せて、任期付短時間勤務教員を T2 としてよりきめ細やかな指導を行う。具体的には、個々の理解の状況に応じて、操作を伴う具体物や反具体物、ヒントカードなどを適宜活用し、1 単位時間内での理解の質の向上を図る。また、週 1 回の補習を放課後の時間を活用し実施する。

学習の冒頭には、必ず前時の復習を行う時間を設定する。また、必要があると認められる場合は、下の学年に遡って課題の提示を行うことをすべての授業における共通の留意事項とする。

発展的な指導を行うグループについては、既習事項を生かした問題作りをさせたり、自分たちで各自の考えを説明し合う場面をより多く活動場面に取り入れる。単に計算や作図ができるだけでなく、なぜそうなるのか、より効率的な処理はできないかなど言葉や図を活用して、相互に説明をさせていく。また、複数の単元の内容を取り入れた課題に取り組みせ、既習事項を生かしながら課題を解決活動を通して、安易な見通しではない、数学的な考えを意図的に引き出しながら、本来の学習の見通しを踏まえた指導を行う。

#### (4) 理科

##### 理科の重点

- ・自然の事象や現象との出会いを工夫し、問題意識をもたせ実感の伴った主体的な学習にする。
- ・予想や考察の場面では、考えを交流する場を設定し、科学的な見方や考え方を深める。
- ・学習のまとめの場面で、学んだことを日常生活に生かし、さまざまな自然事象につなげて考えられるように「活用」場面の充実を図る。
- ・科学用語を適切に用いたり、実験器具を安全に正確に使用したりできるようにする。

#### (5) 生活科

##### 生活科の重点

- ・草花や野菜の栽培、生き物の飼育活動などを通して、成長の変化や命をもつことの大切さに気付けるように、日常的な体験活動を多く取り入れていく。
- ・自分たちを支えている学校で働く人々や住む町を探検したり、伝承遊びなど地域の人との交流を通したりして、町への親しみと愛着が深まるような体験学習を計画する。

#### (6) 音楽科

##### 音楽科の重点

- ・曲想と音楽の構造などの関わりを理解し、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。
- ・音楽表現の工夫、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- ・音楽活動の楽しさを多く体験することにより、音楽を愛好する心情と感性を育てる。

#### (7) 図画工作科

##### 図画工作科の重点

- ・表現及び鑑賞の活動を通し、感性を働かせながらつくりだす喜びを味わうようにする。
- ・豊かな情操を養うために、造形的な創造活動の基礎的な能力を培う。

#### (8) 家庭科

##### 家庭科の重点

- ・生活に関する基本的な技能を身につけさせるため、実習や製作を多く取り入れ、日常生活をよりよくしようという態度を身につける。

#### (9) 体育科

##### 体育科の重点

- ・生涯にわたって、運動に親しむ資質や能力の基礎を育むために、発達段階に応じて、様々な運動経験をさせる（系統立てた指導）。
- ・体育の授業だけでなく、様々な教育活動の中で、運動を習慣化させる。